

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	子ども発達センターたつく		公表日		令和8年3月31日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20	1	・利用人数、子ども達の特性に応じてスペースの大きさを変更している。 ・必要に応じて構造化されている ・子ども達が活動しやすいよう、グループを分けて実施したり、環境設定をしている。 ・利用人数によって環境設定を柔軟に対応している ・活動や遊びに合わせて部屋を整えている	活動内容や子どもの特性によっては、空間の使い方に工夫が必要な場面があります。今後も、活動ごとの人数配置や空間の区切り方を見直し、安全で落ち着いて過ごせる環境づくりに努めていきます。
2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	20	1	・活動内容、ねらいに合わせて配置しているが、ディレクターが当日でなく前日に確認できると良い ・部屋を分けた時、時に職員の配置数が少ない事がある。最低限の確保が必要と思われる。 ・年度のはじめなど時期によっては職員の人数が必要な時があることをご理解いただくと幸いです。 ・子どもの様子や活動によって職員をサポートを行っている	基準を満たしていることに加え、実際の支援場面での安心感や関わりやすさにも目を向け、柔軟な体制づくりを進めていきます。 少人数で行う支援場面では、仕切り（空間設定）があると良いため、環境を整えていきます。	
3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	21	0	・綺麗に整理されているので、使ったらものに所に戻す意識の徹底 ・朝の登園時の支度動線をロッカーで仕切って工夫しています。 ・トイレは子供用トイレの他にオムルや補助便座、多目的トイレと体験出来るようにしている。	車椅子や松葉杖などの利用、保護者の中で高齢の方が移動する場合には施設内のより細やかな環境整備は改善が必要と感じます。また、段差が少なめのため安全性はありますが、ウッドデッキの土足の項目はわかりにくいため、視覚的に示していくことを検討していきます。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	20	1		清潔で心地よい環境を基本にしながら、子どもの活動内容や特性に合わせた空間設定について、継続的に見直しを行っていきます。	
5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	19	2	・部屋数が足りない事があり、調整が必要。 ・各グループで使用する部屋や場所の確認をし、必要な時には職員同士、声をかけあっている ・個別で行うスケジュールを組んでいる。	子どもが崩れた時など、1人になって落ち着ける空間を設ける事ができるよう個別に使用できる空間確保をし、気持ちの安定を支えるための環境づくりの視点を大切にしています。あそびや活動、子どもの発達に合わせて、部屋や空間を工夫して行っているため、より職員の適切な支援につなげていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	21	0	・研修を通して学び、日々に活かしています。 ・研修等も含めて意識して取り組めるよう努めています。 ・グループ会議を行い報告している。	細かい支援内容、日々の働きかけの力がついていくといふ→日々の記録にわかりやすく記入し、モニタリング・支援計画の共通認識の場を充実していきたいと思えます。 PDCAサイクルの理解、職員が共有して、進められるように、場を作っていく。→立てた計画を実践し、振り返りをし、次に活かすという子どもの支援を良くしていくための流れを作り、職員の意識につなげていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	21	0	・アンケートだけでなく日々の記録ややり取りから気になったことは改善している ・アンケートを実施しています。 ・保護者の振り返りを共有して次回の方向性を話している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	21	0	・誰もが発言できる雰囲気はできていると思うが、積極的なアイデアが聞けるといい。 ・グループでの話し合いが随時されている。職員会議の中で課題として挙げている。 ・活動記録の記入について定期的に話し合っその都度改善している。	意見を出しやすい雰囲気づくりはできているため、今後は、テーマ設定や問いかけの工夫を行い、より積極的な話し合いにつなげていく必要性を感じます。また、記録の目的や視点を職員間で引き続き共通理解し、記録の質の均一化や効率化を図って行きたいと思えます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	19	2	・話し合われたことが周知されている	年に一度、第三者委員会を実施しています。評価内容を業務改善に反映し、その過程が伝わるように工夫していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	21	0	・誰もが研修担当となり発信できるようになっている ・毎月研修が設けられています。不参加のときには資料や動画で情報共有をしています。 ・活動中に担当を決めて活動記録を短時間出来るようにして研修に参加します。 ・今、必要な研修が組まれていてと感じている。	回数や時間帯を考慮し、振り返り時間の短縮にならない工夫がされると良い。様々な研修を実施していただいているが、業務とのバランスの取り方が難しいと感じる時があります。→資質向上の研修は、職員一人ひとりが、共通理解のもとで、質の高い支援を継続的に提供するために重要な取り組みです。その中で、回数や時間帯、参加・振り返り方法など、工夫できる事は今後、検討していきます。
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	21	0	・グループ会議で確認して作成している。	廊下に貼られているが、保護者に興味を持って見てもらっているかの評価は必要。→日々の支援プログラムのどの部分にあたるかが伝わるディレクターを新しく作成して進めていきます。ディレクターの内容が保護者に伝わるように職員のスキルもあげていけるといいと思います。	

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の送迎のため、話をする機会がある ・支援会議や日々の振り返り、グループ会議の時間を使って課題や支援方法を共有しています。 ・子どもの発達段階を確認しながら、その子に合った支援を具体的にを行うようにしている。 ・モニタリング、面談などで子どもと保護者のニーズや課題を客観的に見て、支援計画に反映している。 	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずケース担当者との話し合いが持たれている ・活動記録でどのような支援を行ったか記録し次回の対策を話し合う。 ・子どもと関わる職員同士で、子ども、保護者のことを共通認識をし、子どもにとって大事にすることを話している。 	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援会議や日々の記録をするときに確認しています。 ・グループ会議で方向性を確認する。 	現在、グループ会議で全員が揃う体制の中で、支援計画の共有、計画に沿った支援が行われるように進めているため、PDCAサイクルを活かしていきたいと思えます。会議に出られなかった職員は、会議録に目を通したり、不明な点は各クラスの職員と共有してください。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・身体のアセスメントは、簡易的な感覚プロフィールを使っています。 	何がそれに当たるのか？職員の理解など意識の確認は必要。→子どもの姿を様々な角度から捉え、職員の理解を深めるためのアセスメントの在り方を、改めて見直し、評価の位置づけや定期的な活用方法を整理し、支援計画への反映がわかりやすくなるように取り組んでいきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを学ぶ機会が研修として多く時間を取っている ・職員が常に各視点を共有化するようにされている。 ・ガイドラインに示されているねらいや支援内容をわかりやすく設定している。 	児童支援計画は、ガイドラインに示されている本人支援・家族支援・移行支援の観点から子ども一人ひとりに必要な支援内容を作成しています。その理由や支援内容の具体性について、職員間で共通認識と情報共有を行いながら支援の質の向上を図っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいに沿って、意見を出し合い、プログラムの内容を決めていく ・ねらいを元に活動内容を話し合っている。 	・ゆとりを持って計画できるといい。→次に活かす活動内容や子どものグルーピングや支援方法の共通認識を明確にし進んでいきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな視点で考えられるよう、作業療法士、言語聴覚士が身近にいて意見をもらえる ・常に見直しがされている。 ・運動プログラムに関しては同じ活動でも、子どもの発達に応じてグルーピングや内容の種類をいくつか立案しています。 ・活動後に改善点を話し合い、必要な時はプログラムの内容を変更している 	子どもの発達段階や興味関心、支援目標に応じて活動内容の工夫を行っています。その意図やねらいが十分に伝わっていなかった点を課題と受け止めています。今後は、これからの成長の土台となる経験を考えながら、活動の幅や工夫が伝わるように改善していきます。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の記録をもとに計画が立てられている ・職員間で連携しながら、個別に支援している。 ・抜き出しや小集団でのグルーピングなど個別に合わせた対応をしていると思う 	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の活動前等に打ち合わせをしています。 ・前回からの引き継ぎ事項を確認しながら、保護者への対応など話し合いをしている ・始まる前に必ず打ち合わせをして、情報共有している。具体的に個別対応の担当も決めている。 ・出勤時間の関係で打ち合わせには参加できないが、その日の動き等確認できる人がいるためありがたい 	時間がかかるだけでなく、効率的にすすめられるといい。→事前に共有できる内容の整理や確認事項の簡素化などを行い、必要な情報を短時間で共有できるよう工夫しながら、より効果的な打ち合わせを目指していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日振り返りを実施しています。 ・振り返りの時間の中で共有化がされている。 ・各先生方忙しいと思うが必ず振り返りをして次に繋げている ・支援の仕方、対応など報告、相談が出来る ・振り返りの記録用紙に次回する事を記入して、それをともに打ち合わせをしている。 ・振り返り用紙は、あらかじめ児発管が目を通してある。 	時間を有効につかえるといい→情報共有の内容が広がりやすい場面があるため、「事実の共有と次に支援につながる気付き」に絞って、確認するポイントを明確にしています。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に子どもの行動の見立てをして活動に臨むと記録も書きやすいのではないと思う ・日々の記録を毎回とっています。 ・簡潔なパソコン入力により、時間の短縮や職員間での共有化がはかられている。 ・個別記録に残し誰でも対応出来るようにしている。 ・ポイントだけを入力する方がわかりやすいのかもしれないが、ことばの実施記録に関しては結果はすぐには変わらないが積み重ねで過程の変化が重要であるため流れがわかるように記載することを意識している 		
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の視点で行なわれている ・モニタリングで計画の見直しを行い、保護者と共有しています。 		
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな話がでどのような方向性を提案するかなども事前に確認されている 		
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に連絡をとっている ・常に情報交換を行なっている。保育所訪問の機会を利用している。 		

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	21	0	・訪問時確認している	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	21	0	・その子の事を知る職員が引き継ぎをしている ・連絡会や引き継ぎ書を使って情報共有をしています。 ・かけはしシートの活用 ・かけはしシートを作成し、丁寧に情報共有と相互理解の場を設けている。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	20	1	・参加した職員が報告し共有できる体制は整っている	ネットワーク会議や児童発達支援センター連絡会の中で、センター事業所や行政と連携し、情報交換や事例研修を設け、他事業所とも質の向上に資する取り組みを行っています。職員も学びにつながるように、内容の周知や参加を検討していきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	21	0	・繋がりを大切に研修に来てもらったりしている ・毎月療育の様子を見ていただいたり、資料を提出して助言をいただいています。 ・職場内研修や外部研修への参加を勧めている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	21	0	・情報を報告してもらい把握している ・担当者の方が参加し、情報を得ています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	21	0	・地域の幼稚園との交流を定期的実施しています。	どの子ども併行通園として交流できているが、たっくとしてはどうかわからない→今年度は、週3、4日利用する年少児が対象でした。園での在籍日数よりも当事業所の利用日数が多いことを踏まえ、園児との交流の機会を意図的に設けましたが、仕事をされているご家庭は、参加が少なく、今後は必要性について検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	21	0	・こどもの様子だけでなく、見立て働きかけとお話している ・送迎時に保護者に伝えていきます。 ・個別面談を定期的に行っている。 ・日々様子を直接伝えられるのが強みであると感じる ・その日のこどもの状況を伝えら中で、うまくいかなかった事に対しての背景を伝え、共通理解に繋がるようにしている。丁寧な話をする時は面談にて伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	21	0		参加に限られているのでたくさんの方に参加してもらえらる工夫が必要→今後は、ペアレントプログラムの希望者の参加、当事業所を利用を減らしたり終了することも対象に、保護者の対応力の向上を図る観点から参加してもらい、家族支援の機会を設けていきます。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	21	0	・研修などで知識を得ている ・相談時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	21	0	・話し合っ進めている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20	1	・わかりやすくお話ししている	支援計画の説明や同意には、丁寧に実施していると認識していますが、職員間での理解や関わり方の取り組みが十分ではないと考えられます。職員間で共通認識を持つ体制づくりを進めていきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	21	0	・常時受け入れている。呼びかけている ・生活記録表や送迎時に相談に応じています。また必要によっては面談を設けます。 ・保護者との話し合いをこまめに行なっている。 ・必要に応じて面談をしている。 ・児発管やリーダー職員を中心に2人体制で支援を行なっている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	21	0	・スキップを活用して時間を作っている ・お話会等で保護者同士の合流の機会を設けています。 ・エンジョイデーや父親参観、オータムフェスなど、保護者同士やきょうだい同士が交流できる機会の場を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	21	0	・直ぐに対応できるような仕組みができています	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	21	0	・写真なども発信している ・たっくたよりや写真を使った掲示、インスタグラムを使って発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	21	0	・研修で基礎を学んだ中で、みんなで意識しあい取り組んでいる	

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばだけでなく動作、表情からも思いを汲み取っている ・口頭での説明のみでは伝わりにくい保護者の方には、カレンダーや紙面で説明するように心掛けています。 	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂など取り組んでいる ・サロンや子ども食堂等で地域住民を招待する機会をつくっています。 ・地域のお祭りなどの情報を家庭にお伝えし、地域交流ができるよう取り組んでいます。 ・地域交流に参加を通して、地域で行なっている事がわかり、共有できる事が増えている。 	サロンや子ども食堂、地域のお祭りなどの情報提供を通して、地域とのつながりを意識した取り組みを行っています。今後は地域との関わりを明確に位置づけ、取り組み内容や目的を整理し、職員・保護者にわかりやすく伝えていきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に行なわれている ・終礼時に読み合わせを行い周知をしています。また各項目の研修で訓練を行っています。 ・終礼で読み上げて確認をしている。 ・研修でシミュレーションを行いながら職員同士で話し合いが出来る ・定期的に研修している。 ・マニュアル化されていて、どこにあるかの周知も職員全員にされている。 	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で取り上げている。 	いろいろな状況を想定したものを行っていきたい→発生の時間帯（活動中・送迎前後・個別プログラム中など）を交えた訓練を取り入れ、より実際の状況に近い想定で訓練を実施していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・目で見てわかるよう表記したり、職員会議で共有している ・落ちがないように、目に見える形での確認方法を行なっている。 ・基礎情報で共有し、アセスメント面談にて、直接、確認をとっている。 	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルに沿って取り組んでいる ・カード等を使って間違いの防止をしている。 	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にも説明、玄関に貼り出し常に見てもらえるようにしている ・定期的実施されている。 	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会にてお話しをしている ・家族、職員に周知してあり、玄関先に置いてあるため、誰でも見れる事も伝えている。 	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットと、一つひとつの事例を大切に対処も行っている ・ヒヤリハットを報告して再発防止に努めています。 ・終礼で報告し、共有化している ・終礼での周知、改善点の報告がある ・報告書で再発防止の対策を報告している。 	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・研修にて周知、グループでお互いに取り組んでいる ・常に行動を観察して、不適切な行動がないか見ています。 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・必要ならば説明、表記する仕組みができています。 ・必要によって、マニュアルに沿って対応します。 ・現在、対象児がいません。 	身体拘束に関するマニュアルがあり、職員に周知しています。現時点では、身体拘束が必要となる対象児がいないため、個別の支援計画への記載や、保護者への事前説明や同意を行う機会がありません。今後は対象児が生じた場合には、速やかに対応できるように、研修を行いながら引き続き適切な運用に努めていきます。	